

決算説明資料

2025年12月期 第2四半期実績
(2025年1月1日～2025年6月30日)



2025年8月8日



倉元製作所 5216



株式会社倉元製作所
KURAMOTO

2025年12月期 第2四半期累計実績（連結）業績概況

2025年12月期 第2四半期 売上高・利益

金額単位：百万円

	2024年12月期 第2四半期累計 (単体)	2025年12月期 第2四半期累計 (連結)	前期比	前期比 増減率	2025年12月期 通期予想 (連結)
売上高	586	1,080	494	84.3%	4,200
営業利益	33	-242	-275	-	100
経常利益	18	-275	-293	-	75
当期純利益	29	-276 *1	-305	-	50
EBITDA *2	59	-21	-80	-	

*1 2024年11月より連結開始。2025年12月期第2四半期は、親会社株主に帰属する当期純利益

*2 EBITDA（営業利益＋減価償却費＋のれん償却額）

2025年12月期 第2四半期累計

売上高・利益比較

百万円



<2025年12月期 第2四半期累計実績（連結）>

- ◆ トップラインの売上高は、前年同期比84.3%増の1,080百万円への成長となりました。なお、第2四半期において、子会社のアイウイズロボティクス社が第1四半期に計上した一部顧客に対する売上高について、保守的な処理を行う観点から、現金回収部分のみ売上高に計上する処理を行っております。
- ◆ 営業利益は2024年11月にアイウイズロボティクス社を株式交換による子会社化及びUNOクォーツからの石英事業の吸収分割に伴う、のれん償却を198百万円計上したことにより、275百万円減の△242百万円となりました。
- ◆ 経常利益は、事業構造改革の一環として2024年に実施した成膜事業撤退に伴い遊休となっている花泉工場の減価償却費、固定資産税及び管理費用等に係る遊休固定資産費用21百万円計上したこと等により、293百万円減の△275百万円となりました。なお、花泉工場の遊休資産は、ペロブスカイト太陽電池事業で活用する計画です。
- ◆ 親会社株主に帰属する当期純利益は、前年同期比305百万円減の△276百万円となりました。
- ◆ EBITDA（営業利益＋減価償却費＋のれん償却額）は前年同期比80百万円減の△21百万円となりました。

2025年12月期 第2四半期累計 セグメント別（連結）業績概況

セグメント別 売上高・利益

金額単位：百万円

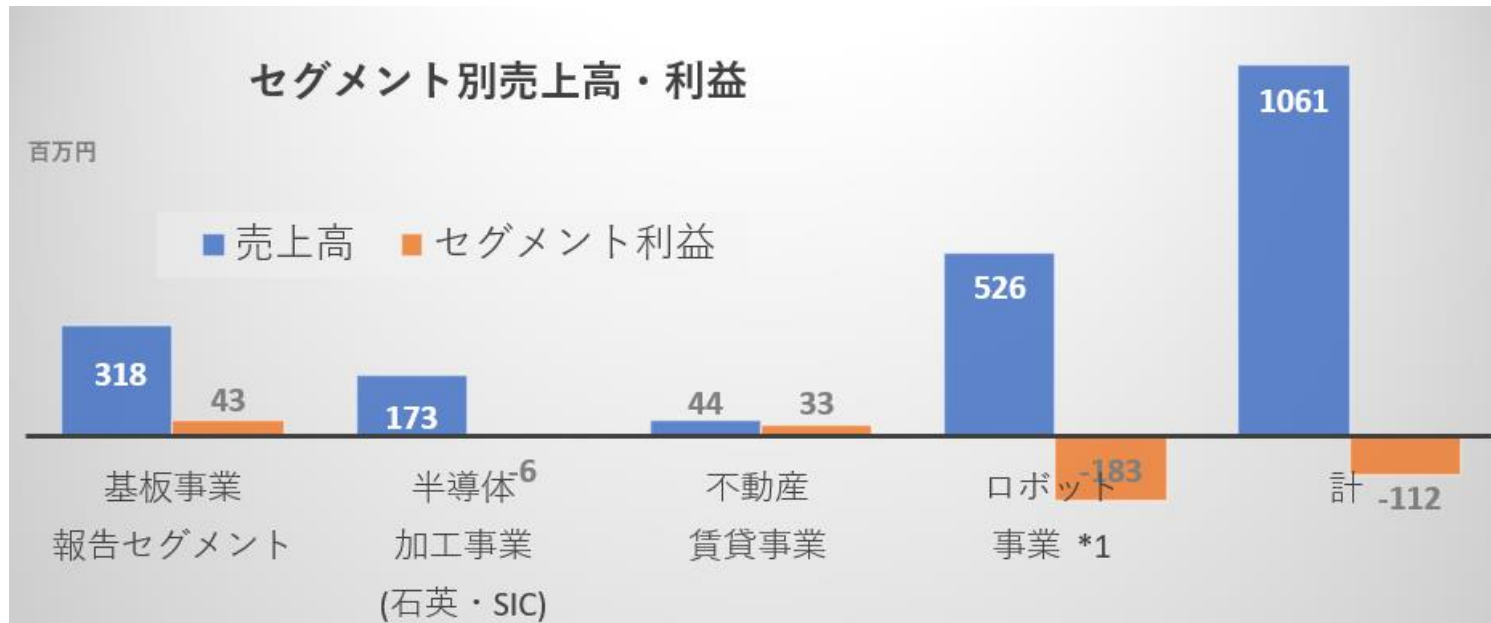
	報告セグメント					その他 *2	共通費 *3 調整額	連結財務 諸表計上額
	基板事業	半導体 加工事業 (石英・SiC)	不動産 賃貸事業	ロボット 事業 *1	計			
売上高	318	173	44	526	1,061	25	-6	1,080
(構成比)	(30.0%)	(16.3%)	(4.1%)	(49.6%)	(100.0%)			
セグメント利益 *4	43	-6	33	-183	-112	6	-135	-242
(売上高利益率)	(13.5%)	-(3.5%)	(75.0%)	-(34.8%)	-(10.6%)			

*1 ロボット事業は、子会社で展開しており、2024年11月から連結しております。

*2 その他は、Lark事業及び派遣事業であります。

*3 共通費は、各セグメントに帰属しない全社費用です。

*4 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。



<セグメント別 売上高>

- ◆ 基板事業（研磨研削）の売上高は、前年同期の391百万円から、当四半期は318百万円と減収。主な要因は、成膜事業の撤退にともなうものです。
- ◆ 半導体加工事業の売上高は、石英加工事業が伸張し、前年同期の143百万円から当四半期は173百万円と増収。
- ◆ 不動産事業の売上高は、前年同期51百万円から、電気料金の賃貸先への請求方法の変更により、当四半期は44百万円と減収となりました。
- ◆ ロボット事業は、2024年11月から連結により計上しております。第1四半期売上高656百万円に對しまして、第2四半期（累計）の売上高は526百万円となりました。これは、第2四半期において、子会社のアイウイズロボティクス社が第1四半期に計上した一部顧客に対する売上高について、保守的な処理を行う観点から、現金回収部分のみ売上高に計上する処理を行ったことによるものです。

※ セグメント利益の前年比較は、前期第4四半期より連結決算を開始しており、前期第1～第3四半期は単独決算のため行っておりません。

財務状況の実績推移 2023年～2025年第2四半期

【貸借対照表（要約）】

単位：百万円

	2023年 12月期 単独	2024年 12月期 連結	2025年 12月期 第2四半期末 (連結)
資産の部			
流動資産	264	1,358	833
現金預金	51	639	224
受取手形及び売掛金	109	466	137
商品、製品及び原材料	82	158	358
その他	22	92	114
固定資産	852	3,297	3,529
有形固定資産	850	1,343	1,717
無形固定資産（のれん他）		1,939	1,792
投資その他の資産	1	14	19
資産合計	1,117	4,655	4,362
負債・純資産の部			
流動負債	548	683	606
支払手形及び買掛金	21	73	273
短期借入金	293	359	205
その他	233	251	128
固定負債	371	229	215
長期借入金	280	164	158
その他	91	64	57
負債合計	919	912	822
純資産	197	3,742	3,540
負債・純資産合計	1,117	4,655	4,362

＜貸借対照表（連結） 2025年6月末＞

◆ 総資産4,362百万円。主な内訳は、現金及び預金224百万円、受取手形及び売掛金137百万円、土地534百万円、建設仮勘定889百万円※、のれん1,722百万円等※。

※ 建設仮勘定は、ペロブスカイト太陽電池量産設備及びロボット組み立てライン設備（いずれも期末時点で未稼働）の投資額のうち既支払額です。

※ のれんは、主に、アイウイズロボティクス社を株式交換により100%子会社化したことによる超過収益力の評価額です。

◆ 負債合計は、822百万円。主な内訳は、支払手形及び買掛金273百万円、短期借入金205百万円、長期借入金158百万円等。

◆ 純資産は、3,540百万円※。

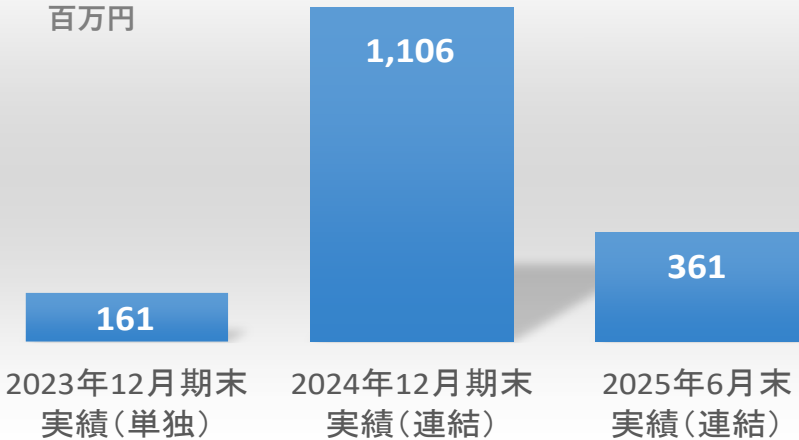
※ 2023年12月末からの主な増加要因は、2024年の第三者割当増資、新株予約権の行使による増加とアイウイズロボティクス社との株式交換及びUNOクォーツ社の吸収分割により、あらたに株式を発行して交付したことによるものです。



財務状況の実績推移 2023年～2025年第2四半期末

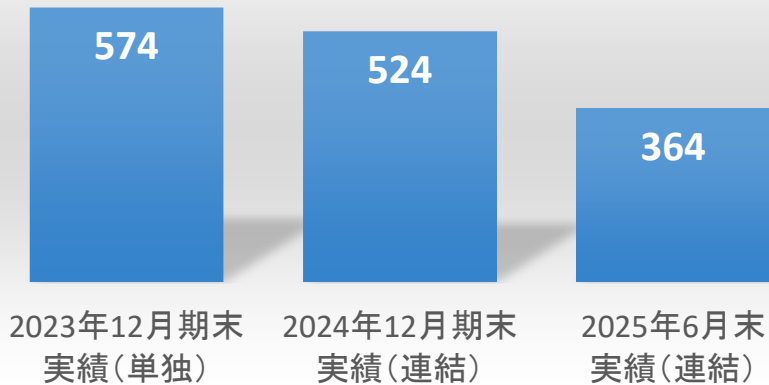
手元現預金・売掛債権残高

百万円



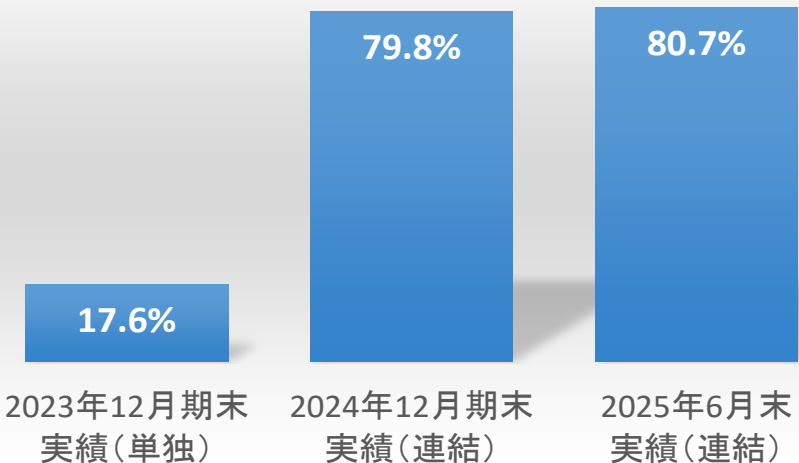
有利子負債残高

百万円



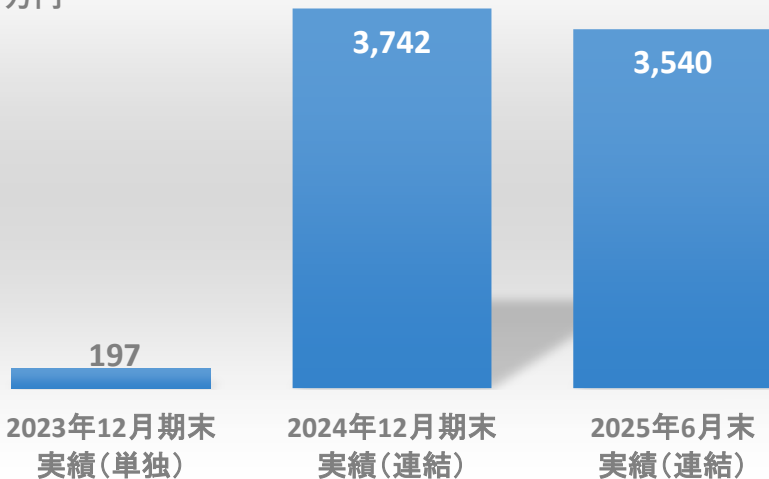
自己資本比率

百万円



純資産

百万円



会社概要





目次

会社概要

- ・ 会社概要 8P
- ・ 経営理念 9P
- ・ 倉元製作所 技術開発の歴史 10P
- ・ 事業拠点 11P
- ・ 組織 12P
- ・ 事業領域 13P

事業紹介

- ・ ロボット事業 14P
- ・ ペロブスカイト太陽電池事業紹介 17P
- ・ AI 主導型表面検査（ AI高速カメラ）事業・ 23P
- ・ DXツール LARK事業 28P
- ・ 半導体加工事業 石英加工 30P
- ・ 半導体加工事業 SiC加工 35P
- ・ 基盤事業 41P



会社概要

社名	株式会社倉元製作所
証券コード	5216（東京証券取引所スタンダード市場）
代表者	代表取締役社長 渡邊 敏行
本店所在地	〒989-5508 宮城県栗原市若柳武鎗字花水前1-1
電話・FAX	電話：0228-32-5111 FAX:0228-32-6451
ホームページ	https://www.kuramoto.co.jp
設立	1980年8月29日（創業1975年10月13日）
資本金	1億3,465万2,552円
決算期	12月
社員数	61名（2025年6月末）
事業内容	■ 基板（研削・研磨）事業：フラットパネル（FPD）用ガラス基板の開発、製造ならびに販売 ■ 半導体加工事業（SiCウェハ、石英・SiC パーツの研削・研磨加工） ■ 次世代半導体パッケージ向けのTGV(Through Glass Via：ガラス貫通電極)・TSV (Through silicon via：シリコン貫通電極)関連製品の製造・販売 ■ DXツールの販売事業 ■ ペロブスカイト太陽電池事業 ■ 不動産賃貸事業 ■ AIロボット事業（グループ）



東証スタンダード上場



ISO9001 認証登録証明書

ビジネスを通じて



時代の半歩先を歩み続ける

ビジョン・目指すところ



世界の最先端技術を取り入れ
日本のモノづくりの原点に回帰し、ヒト・モノ・カネ・情報の良い循環を作り、未来に向けて進化する

組織力



全社員が一致団結し、誇りと情熱を持って取り組むことの出来るモノづくりのプロ集団

株式会社倉元製作所はこれらの理念の下、明るい未来づくりに貢献致します。



倉元製作所 技術開発の歴史

切断・研磨技術

- 液晶用ディスプレイガラス研磨の分野では自社製研磨加工機による世界最高レベルの高平坦度を実現
- 液晶ディスプレイガラス基板の切断では、自社開発の自動切断機により、高加工品質(高寸法精度と直角度)と高生産性を実現

国際品質規格
ISO9002認証取得

日本証券業協会（現東京証券
取引所スタンダード市場）に
株式を上場

TFT液晶ガラス
加工事業を開始

STN液晶用ガラス
加工事業を開始

1975 創業

新規事業

- 既存の切断・研磨・成膜技術にプラスαの技術を加え、新たに半導体分野に進出

超薄型LCDパネルの
研磨加工事業開始

1994

透明導電膜（ITO膜）
成膜事業を開始

SiO₂アンダーコート
加工事業を開始

2001

カラーフィルタ上ITO
成膜加工事業を開始

1999

ブラックマトリクス用低反射
メタル膜加工事業を開始

1995

成膜技術

- 当社のITO膜は量産ベースで比抵抗値 $1.2 \times 10^{-4} \Omega \cdot \text{cm}$ を達成し、量産品では業界最高水準。
- 有機ELのITO膜上の積層において、これまでの液晶事業で培った低抵抗ITO成膜技術と高精度研磨技術の融合により、陽極のITO膜の電気・光学特性に殆ど影響を与えずに平滑化ならびに欠陥除去加工を実現。

2012 有機薄膜太陽電池
研究開発開始

2010 タッチパネル用成
膜事業開始

2012

2018 Siウェーハ
再生事業開始

2022 SiC パーツの研削・
研磨加工を開始

半導体装置用石英
部品事業を開始

TGV事業を開始

2023

新規事業、M & A

DXツール“LARK”
販売代理事業開始

ペロブスカイト太陽電池
事業に参入

AI 主導型表面検査
（AI高速カメラ）事業参入

株式交換により完全子会社化、
AIロボット事業に参入

吸収分割により
石英火加工事業承継

2024

事業拠点



本社・若柳工場
敷地面積14.6万㎡

〒989-5508

宮城県栗原市若柳武鎗字花水前1-1

TEL 0228-32-5111

FAX 0228-32-6451

花泉工場
敷地面積3.9万㎡

〒029-3207

岩手県一関市花泉町油島字内別当19-1

TEL 0191-82-5110(代)

FAX 0191-82-5100



神栖工場
敷地面積2,600㎡

〒314-0112

茨城県神栖市知手中央十丁目6番8号

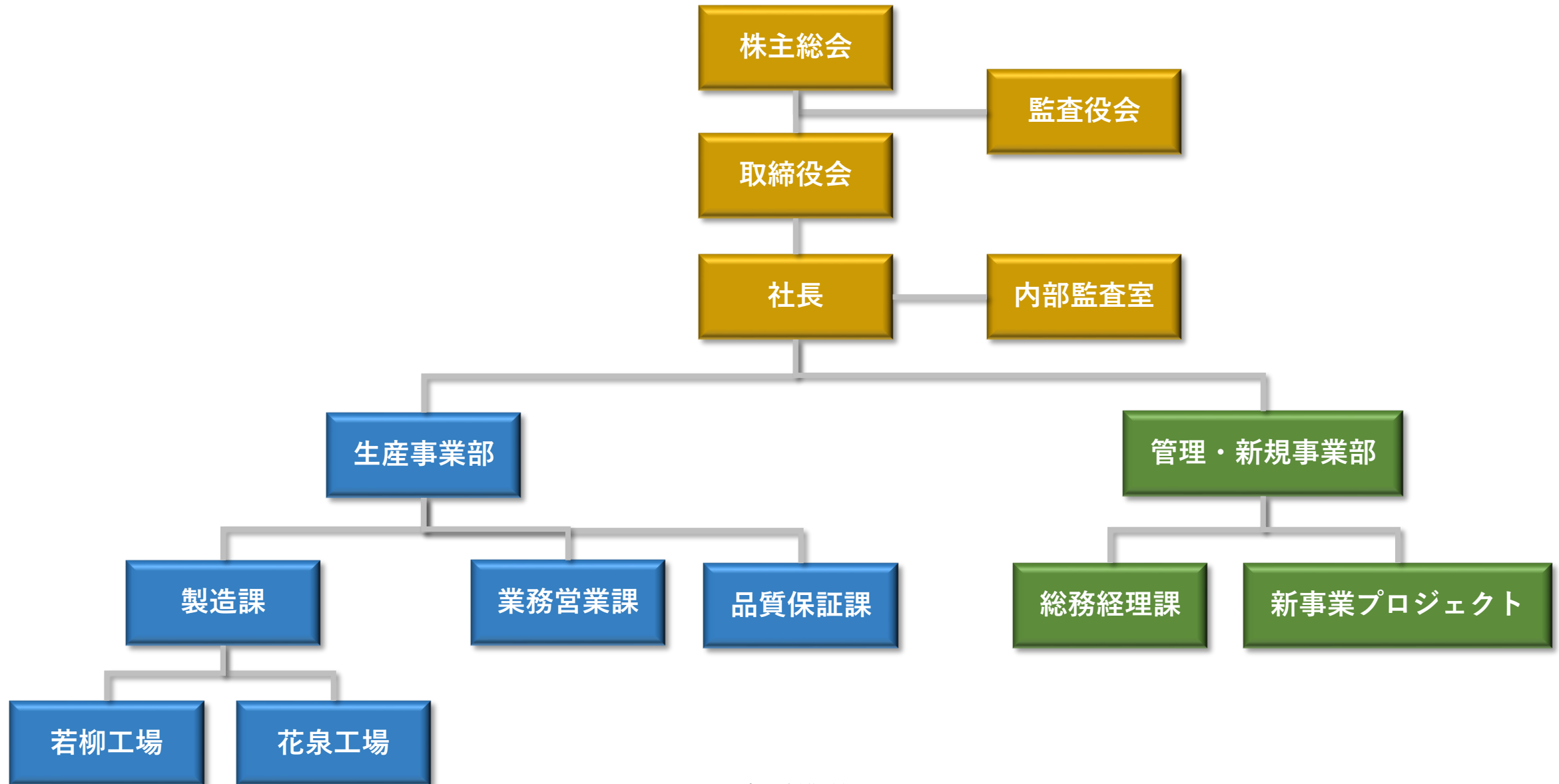
TEL 0299-97-1216(代)

FAX 0299-90-5666



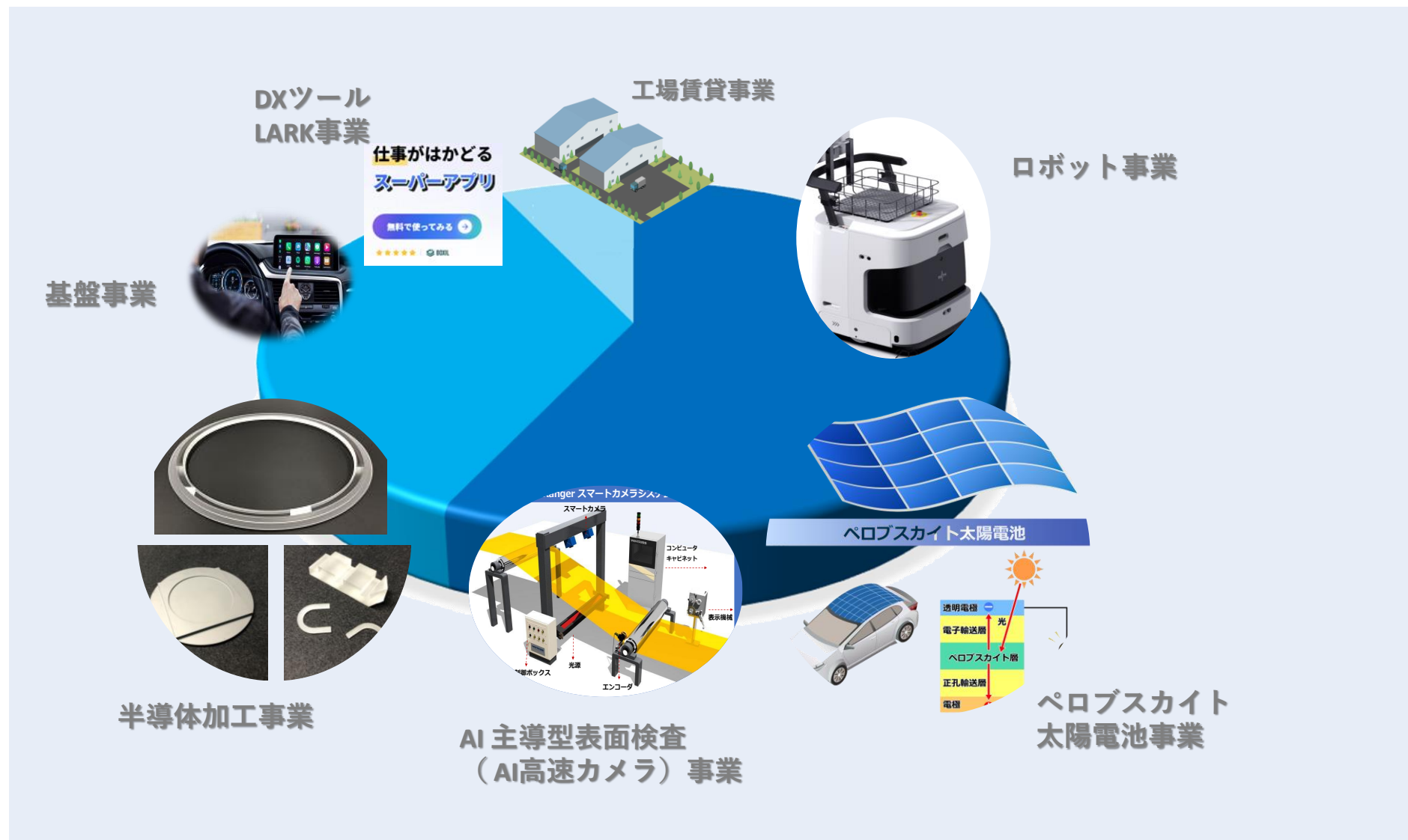


組織





事業領域



ロボット事業



株式会社倉元製作所
KURAMOTO

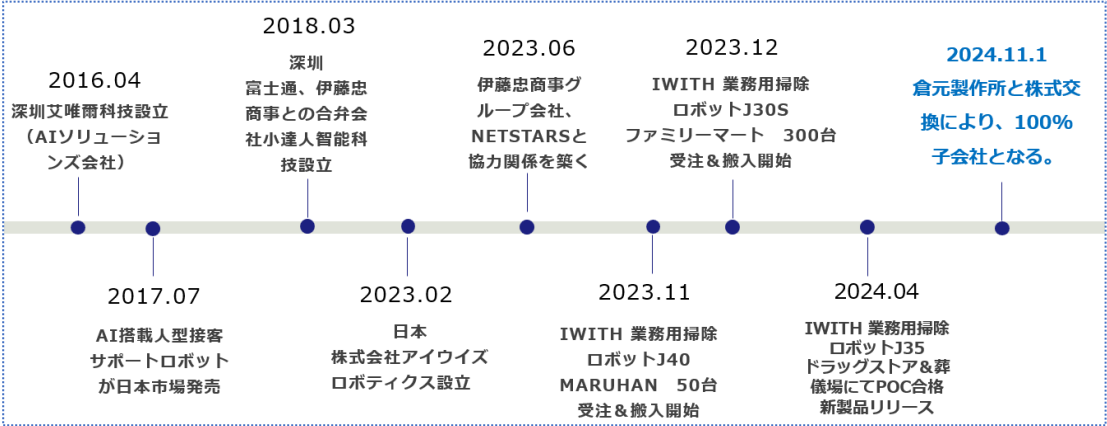


ロボット事業

株式交換によりアイウイズロボティクス社（IWR）を100%子会社化



沿革



製品



競争優位性

市場調査—競争品比較						
Market Research						
ブランド	IWITH J30S	IWITH J35S	IWITH J40	S社	S社	A社
製品図						
掃きと吸塵	○	○	○	○	○	×
床磨き	×	○	○	×	○	○
モップ拭き	○	○ (水なしモップ拭きができる)	○	×	○	×
セルフクリーニング	○	○	○	×	×	×
全自動マップ作成	○	○	○	×	○	×
自動水交換	×	×	○	×	○	×
APPコントロール	○	○	○	×	○	○
商品陳列と広告機能	○	○	○	×	×	×
水タンク仕様	外し可能	外し可能	外し可能	水タンク無し	外さない、不便	外さない、不便

倉元製作所 5216

【株式交換の目的】

- IWRは、その前身となる会社である、AIによる各種ソリューション提供を目的とした深圳市艾唯爾科技有限公司を 2016 年 4 月に中国深圳市に設立
- 2018 年 3 月、深圳市艾唯爾科技有限公司、伊藤忠商事株式会社及び富士通コネクテッドテクノロジーズ株式会社（現 FCNT 株式会社）との3社で中国での AI ソリューション事業を行う目的で、合併会社小達人智能科技設立を設立
- 2023 年 2 月に、業務用お掃除ロボットの日本での販売及び日本顧客向けの製品開発（カスタマイズ）等のマーケティング業務を行うことを目的に IWR 社を設立
- 現在の日本の労働力不足・人件費高騰の経済環境を背景に、AI を活用した全自動の業務用お掃除ロボットを 2023 年 6 月より日本市場に投入し販売を開始
- これまでにコンビニ、ドラッグストア、オフィスに 311 台、清掃会社に32 台、遊技場、ビルメンテナンス会社に 53 台の納入実績
- 2024年 8 月、大手ビルメンテナンス会社とのエレベータ連携の実証試験にも合格、お掃除ロボットが無人でエレベータを操作し各階を移動して清掃を完了させることで、ビル 1 棟まるごと全自動清掃が可能となる。
- 今後、こうしたエレベータ連携を含め、日本市場でのさらなる市場拡大が期待できることから、2024年11月1日、株式交換により当社の100%子会社化



トイレ掃除ロボットT1



掃除方法



便器とセットする

清掃員より本清掃ロボットを便器にセットし、一度便器の水をながす。

便器中の清掃
高圧ノズルから噴水

便座の清掃
ダブルローラーモップで
便座が拭かれる



ローラモップの
セルフクリーニング



清掃完了

清掃完了するとアナウンスで清掃員に通知される。
清掃員がロボットを便器から外すときに便器側面が拭かれる。

便器側面のモップかけ

高精度AI
センサー
搭載！



国内最大級のビルメンテナンス専門展示会

「ビルメンヒューマンフェア&クリーンEXPO2024」出展

2024年11月20日(水)から22日(金)の3日間、東京ビックサイト

ペロブスカイト太陽電池事業

株式会社倉元製作所
KURAMOTO



ペロブスカイト太陽電池とは



【設置場所】

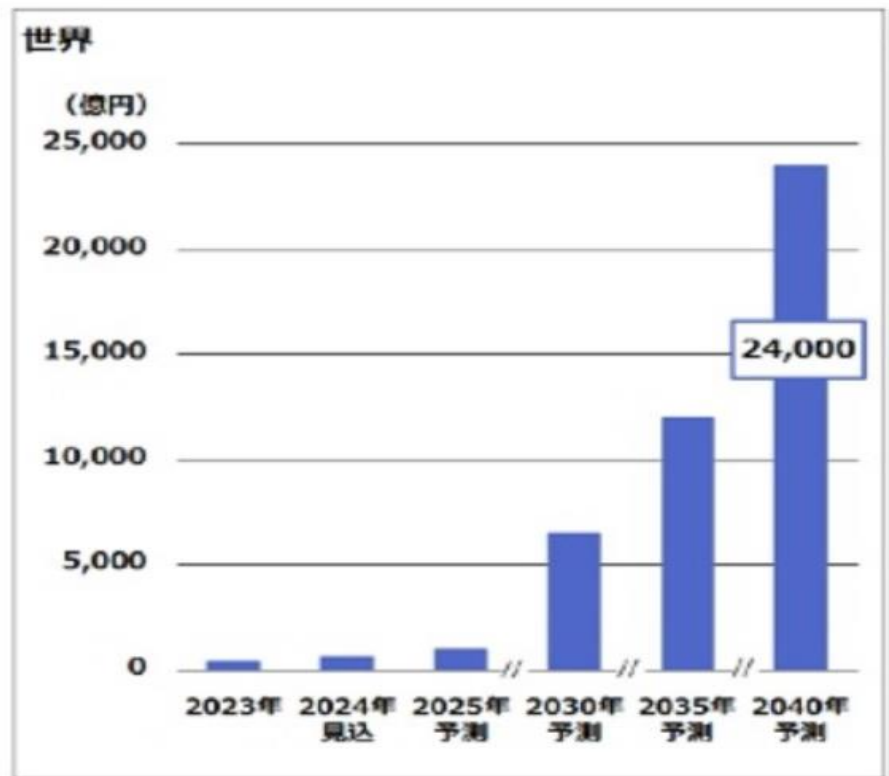
軽量、薄型、柔軟性、低製造コスト、主要材料の国内生産量豊富などの特徴により、**これまで設置できなかった場所**での太陽光発電が可能。

＜設置例＞

- ・低耐荷重の工場、倉庫、事業所の屋根
- ・建物壁面（ビル、商業施設、公共施設、住宅）
- ・駐車場、EVステーション、自動車
- ・高速道路防音壁、街路灯
- ・自動販売機
- ・農業（ビニールハウス等）、アウトドア（テント）、防災施設など

市場規模 & 政府支援策の拡充

ペロブスカイト太陽電池の世界市場、2040年に2兆4000億円



ペロブスカイト太陽電池・世界市場と国内市場の推移
（出所：富士経済）

2023年に約630億円だったペロブスカイト太陽電池の世界市場は2040年には2.4兆円に膨らむ見通し。

量産技術の確立

- 【GI基金によるR&D・社会実装加速】
- 「次世代型太陽電池の開発プロジェクト」（498億円）を通じて、**2030年の社会実装**を目指す。
 - 本年8月、WGを開催し、**支援の拡充（498億円→648億円）**について合意。
 - 技術開発に加えて、導入が期待される様々なシチュエーションにおけるフィールド実証を行うべく、**今年度中に、③次世代型太陽電池実証事業を公募開始予定。**

生産体制整備

- 【サプライチェーン構築】
- 2030年までの早期にGW級の量産体制構築**に取り組む。
 - 令和6年度予算案として、**GXサプライチェーン構築支援事業（R6年度548億円（国庫債務負担行為含め総額4,212億円））**を計上。
 - Tier1に限らず、Tier2以下も含めたサプライチェーン全体に対する生産体制整備支援を実施**することで、高い産業競争力を有する形での国内製造サプライチェーンの確立を目指す。

需要の創出

- 【需要創出に向けて想定される取組】
- 導入目標の策定**（特に公共施設は先行検討）
 - FIT・FIP制度における導入促進策や大量生産等による価格低減目標を前提とした需要支援策**などの検討
 - 太陽電池の製造からリサイクル・廃棄までを見据えたビジネスモデルの普及・制度設計やルール作り
 - 諸外国とも連携した耐久性などの評価手法等の国際標準化
 - アジア、欧米など、**有志国と連携した海外市場獲得**

出所：経済産業省HP

経済産業省GXサプライチェーン 2024年度補助金決定

予算額	421,200,000,000円（令和10年度までの国庫債務負担含む）
補助率	原則 大企業 1/3以内 中小企業等 1/2以内
事業期間	令和6年9月17日～令和11年3月31日
補助対象要件	1) ペロブスカイト太陽電池 ・完成品（ペロブスカイト結晶構造の発電層を有するフィルム型の太陽電池） ・レーザー加工装置 2) 浮体式等洋上風力発電設備 ・ブレード※、タワー、ナセル、係留索・係留チェーン、アンカー、浮体基礎

予算総額
4,212億円

【事業環境】

（社会面）

- 2050年カーボンニュートラルに向けて再生可能エネルギー（以下「再エネ」）供給を拡大させることは不可欠である一方、従来の再生可能エネルギーの主力である、シリコン型太陽光パネルの設置の問題点顕在化（設置場所の不足、[環境破壊](#)、系統連携問題など）
- 既に、[日本の太陽光発電の国土面積あたりの日本の太陽光導入容量は主要国の中で最大級](#)（資源エネルギー庁）で飽和状態。
- ペロブスカイト太陽電池は、[日本の再エネ拡大の切り札](#)（資源エネルギー庁）として位置づけ。

（経済面）

- 太陽光パネルはの生産は、[中国が世界の8割](#)を供給しており、エネルギー安全保障上きわめて高価値であるにもかかわらず、国内生産は減少の一途である。

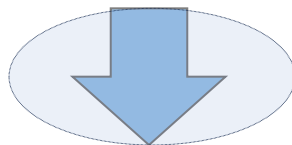
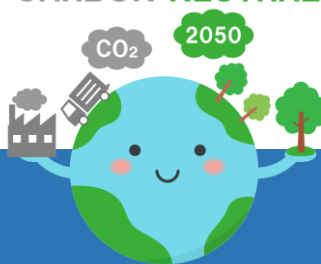
（政策面）

- 2021年10月に閣議決定された[第6次エネルギー基本計画](#)（経済産業省）では、2022年21.7%であった**再エネ比率を2030年に36～38%**（うち太陽光20～22%）を目指すとされ、量産技術確立、生産体制整備、需要の創出のための諸施策が実施されている。

（技術面）

- 量産製造技術（フィルム基材、塗布材料開発等）については、日進月歩で技術革新がなされており、大型化、耐久性の問題もクリアしつつある。

CARBON NEUTRAL



【経営ビジョン】

◆ カーボンニュートラル実現と社会のニーズに応えるために、ペロブスカイト太陽電池を迅速に日本に普及させること

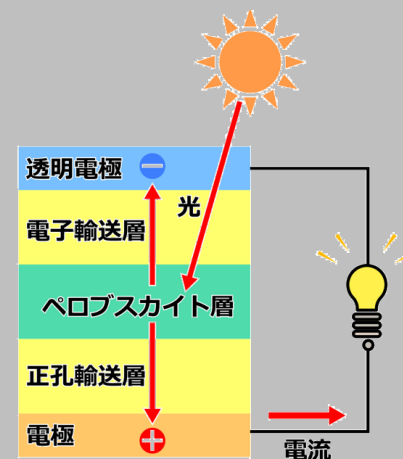
【当社の保有技術】

1) 有機薄膜太陽電池技術

- ・ **金沢大学**と共同で開発した逆型有機薄膜太陽電池パネル製作技術（有機薄膜太陽電池の正孔輸送層技術等）
- ・ **産業技術総合研究所**と共同で実施した逆型有機薄膜太陽電池の耐久性・信頼性評価とその劣化メカニズムの解析

2) ITO成膜技術

- ・ ETFE基板最適化技術、陰極成膜技術、背面電極金属膜成膜技術、nmレベルの膜厚技術
- ・ 低抵抗ITO成膜技術と高精度研磨技術を融合させた陽極ITO膜の平滑化と欠陥除去加工技術
- ・ 樹脂基盤ITO成膜供給実績（株）東レ、帝人デュポンフィルム(株)、三菱エンジニアリングプラスチック(株)他）



金沢大学理工研究域
サステナブルエネルギー研究センター



逆型有機薄膜太陽電池の実証実験
栗駒高原駅バス停通路屋根
金沢大学(株)、倉元製作所、(株)イデアルスター

独立行政法人 産業技術総合研究所

倉元製作所のシーズ

- ・ 実証段階にある逆型太陽電池パネルの製造



有機薄膜太陽電池試作サンプル(左:パネル型、右:ブラインド型)

試作パネル開発

信頼性評価試験の実施
技術指導

産総研支援方法

- ・ 同社の有機薄膜太陽電池サンプルの屋内加速試験および屋外曝露試験を実施
- ・ 試験データによる研究者間での劣化メカニズムの解明に向けた検討

対象市場と製品

① 対象市場詳細

<B to C>

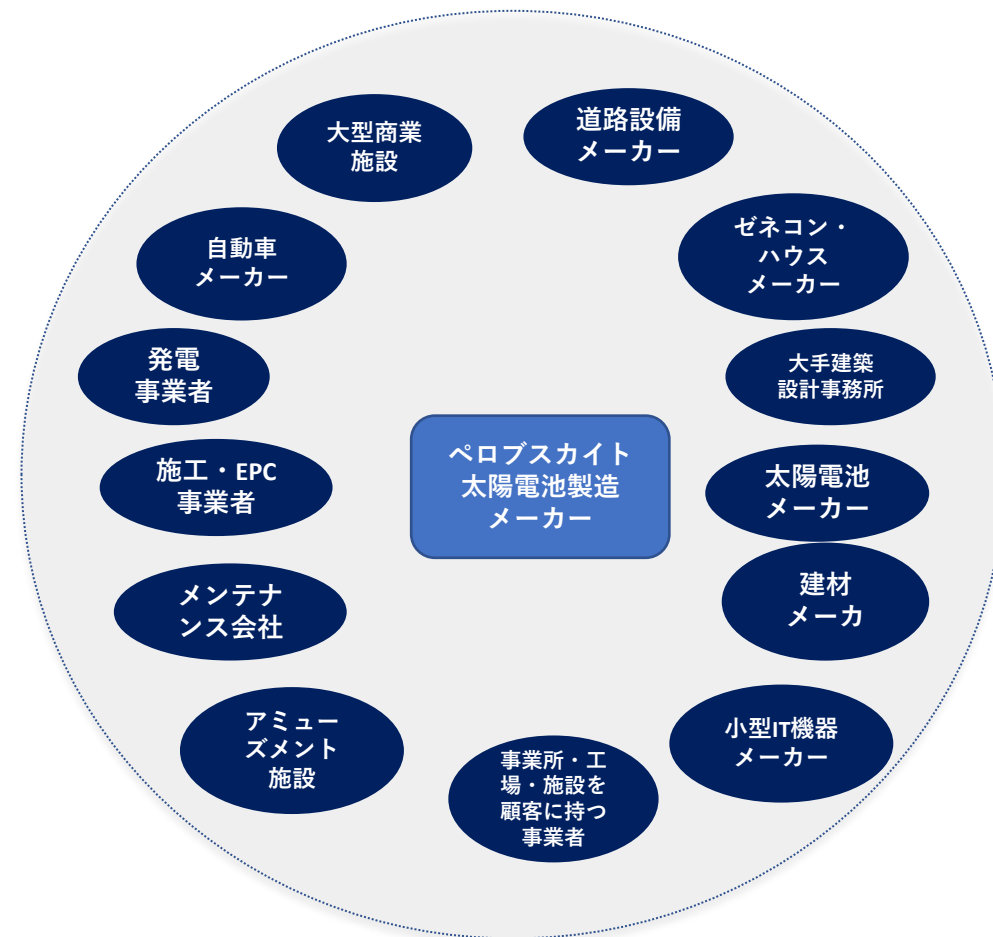
- ・個人住宅
- ・マンションベランダ
- ・アウトドア・キャンプ
- ・携帯用充電器（小型IoTデバイス向け）

<B to B>

- ・公共事業 国、地方自治体等
- ・自動車関係。駐車場、急速充電器等。
- ・高速道路防音壁
- ・街路灯（独立電源用用途）
- ・既存結晶系パネル設置不可（低耐荷重）箇所（工場屋根、倉庫等）
- ・自動販売機
- ・農業（ビニールハウス等）
- ・災害時の非常用電源
- ・小規模店舗（コンビニ等）
- ・耐荷重の小さい工場屋根
- ・建物壁面
- ・EVステーション連携、自動車搭載

② 対象製品

- ・フィルム型
- ・都市型再エネ・蓄電システム



ペロブスカイト太陽電池の
各業界大手企業との提携

AI 主導型表面検査 (AI高速カメラ) 事業



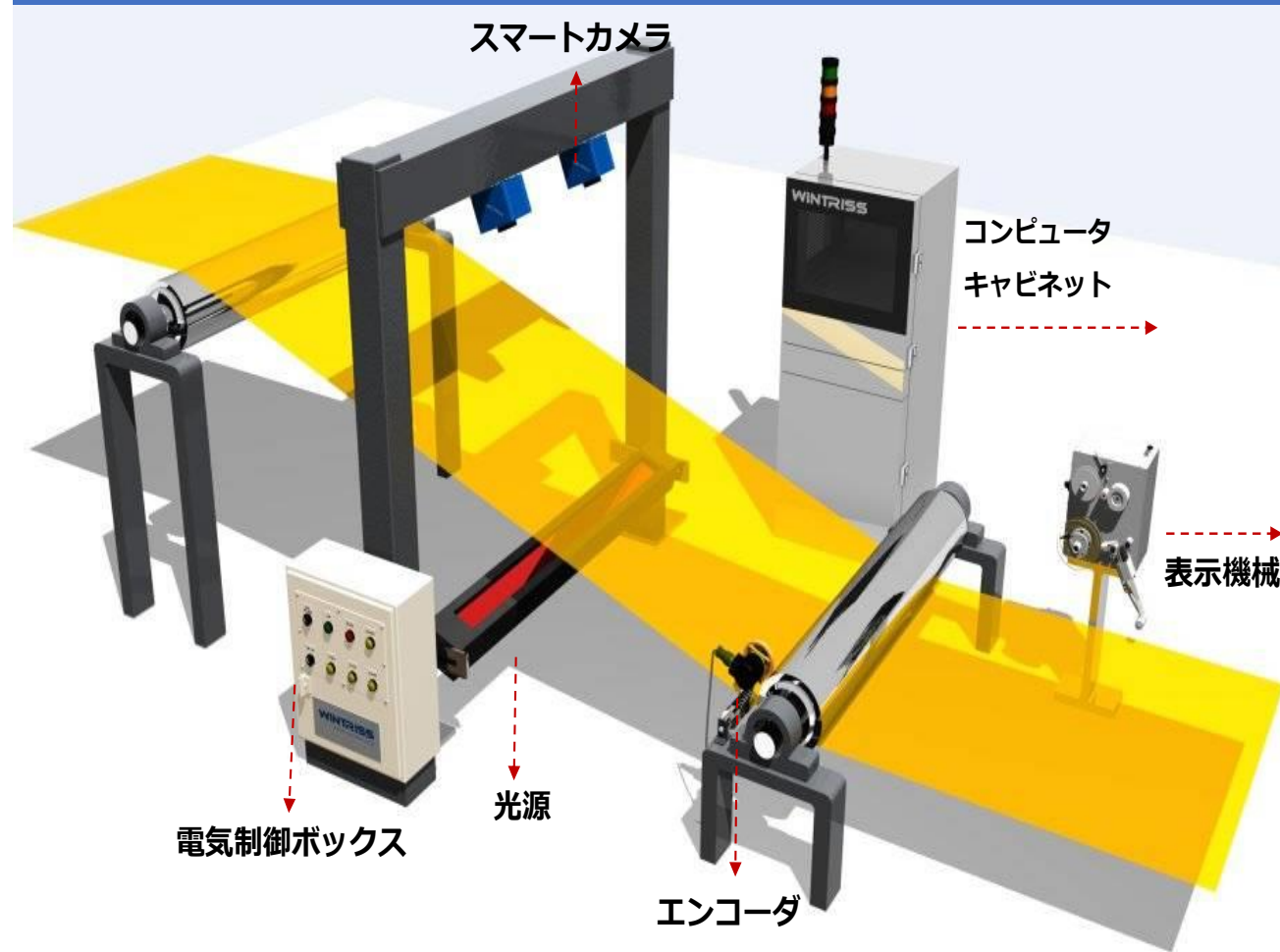
株式会社倉元製作所
KURAMOTO

WECO 社と基本合意書

【基本合意の内容】

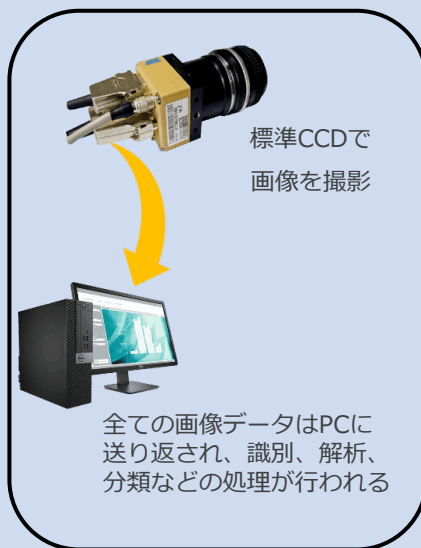
- AI 主導型表面検査の世界のリーディングカンパニーである Wintriss Engineering Corporation（米国 WECO 社） の日本進出にあたり、当社と WECO 社が基本合意書（MOU）締結し、
- 当社がマーケティング及び販売のためのパイロットプロジェクトを推進する協業パートナーとなり、当社が「WECO 製品」のシステムインテグレーター（SI）および独占販売代理に向けて、WECO 社とともにプロジェクトを推進することで合意。

Web Ranger スマートカメラシステム



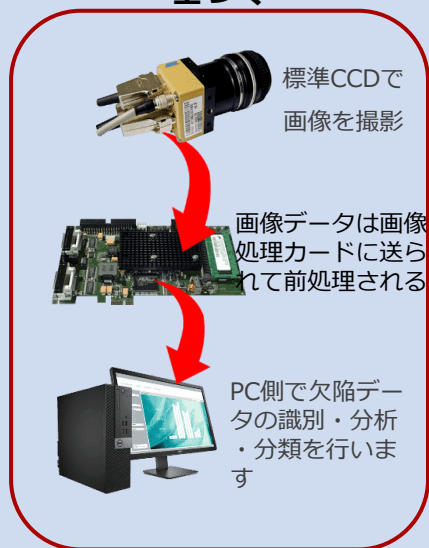
それは単なる違いではなく、世代差です！

第1世代 PCベースのシステム



安価で複雑な構成で
遅い、低い精度、低い精度

第2世代 処理カードシステムに 基づく



より速く、より簡単に設定できます
中程度の精度、一般的な精度

第3世代 (Webレンジャー)



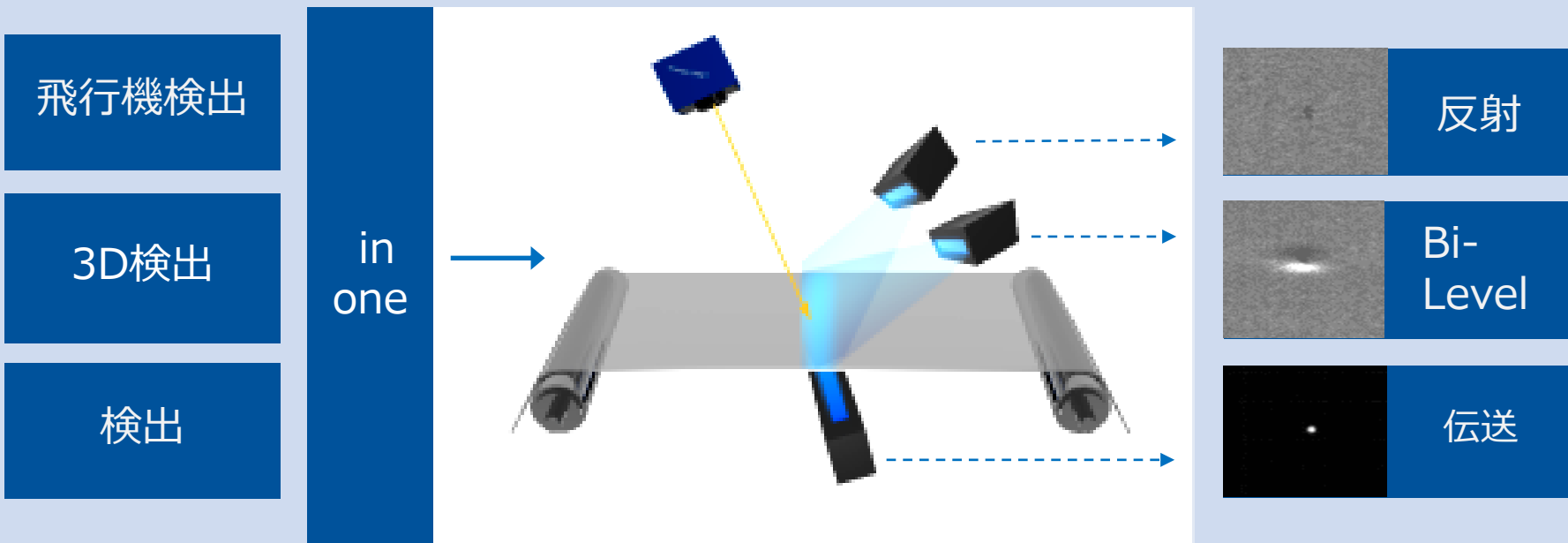
第4世代 スマートカメラシステム



特許の出た商品
速度(640m/s~1.2 g /s+)、高精度(30u~10u)、
高精度(99.9%+~99.99%)
物体検出超高速(2000m/m+)

X-view技術と一体化した検査システムは、ワンステーションカメラを搭載し、マルチステーション検査を実現し、設置が容易です。

1台のシステムで複数の角度からより多くの欠陥を検出し、複数の角度から1つの欠陥を特定し、欠陥の分類をより正確にすることができます。



DXツール LARK事業



株式会社倉元製作所
KURAMOTO



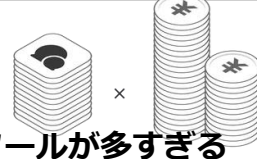
DXツール LARK事業

Larkの特徴



ツールがバラバラ

情報が分断されがち
どこに何があるかわからない



ツールが多すぎる

用途別にツールが必要
ツールが多くなり、
コストが莫大に



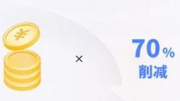
データ分析できない

現場の現状が把握できない
店舗の売上げがわからない



オールインワン

チャットを起点に全てのツールが
繋がって、仕事がスムーズに。



圧倒的コスト削減

Docs、ビデオ会議、承認と様々な
機能がオールインワン。
圧倒的なコスト削減になります。



データが見える化

売上データや、品質管理、勤務状況
など、経営情報全をリアルタイムで
見える化可能。

**仕事はかどる
スーパーアプリ**

無料で使ってる →

★★★★★ BOXIL



レカム社との業務提携 2024年10月1日締結

- ①レカム社との販売代理店契約の締結
- ②「Lark」ユーザー企業へのレカム社のソリューションサービスの紹介
- ③両社のノウハウを活かした新たなサービス開発の検討

名称	レカム株式会社(RECOMM CO.,LTD.) 東京証券取引所 スタンダード 3323
所在地	東京都渋谷区代々木三丁目2 5 番 3 号 あいおいニッセイ同和損保新宿ビル 1 2 階
代表者	代表取締役社長 伊藤 秀博
事業内容 (グループ)	・カーボンニュートラルソリューション ・コストダウンソリューション ・DX化推進ソリューション ・サイバーセキュリティソリューション ・感染症対策ソリューション
資本金	2,447百万円

倉元製作所 5216
URL

<https://www.recomm.co.jp/>

半導体加工事業 石英加工



株式会社倉元製作所
KURAMOTO

UNOクォーツを吸収分割によりグループ化 神栖工場開設

神栖工場 2024年10月29日より操業開始



有限会社UNOクォーツの全事業を吸収分割により承継

【事業承継の目的】

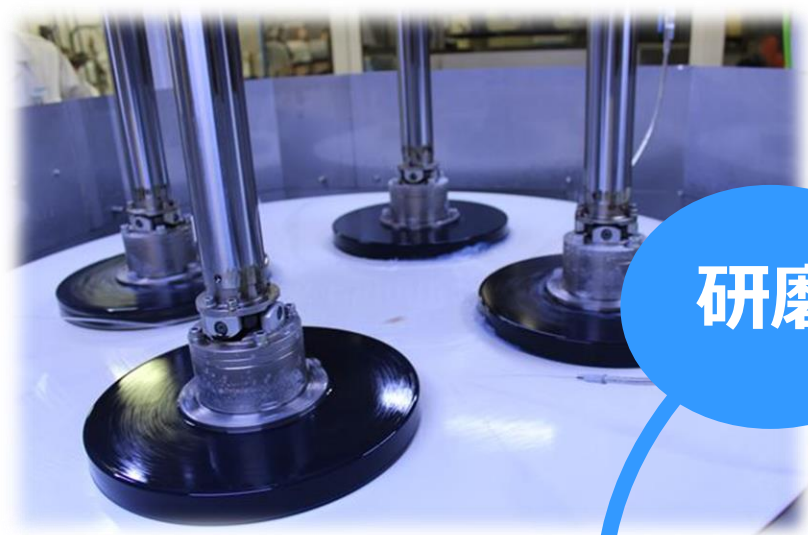
- UNOクォーツ社は、半導体製造装置向けの石英パーツ部品の火加工事業を**20年の実績**
- 当社の新規参入した半導体製造装置向けの**石英パーツ部品の火加工の市場が拡大傾向**にあることからUNOクォーツから火加工事業を吸収分割により承継し、当社の事業として開始
- 石英火加工事業は、**半導体製造業界**や光学機器製造業界、医療機器製造業界などで利用される部品や素材に活用される
- UNOクォーツの強みは、既に火加工に必要な設備（電気炉、大型旋盤、大型研削機、ガス貯蔵施設等）を保有しており、**長年にわたり蓄積された火加工技術**により、高い品質の半導体製造装置向けの石英パーツ部品を供給可能
- UNOクォーツの火加工設備及び火加工技術を当社に取り入れることにより、当社内における**一貫した自社生産体制**の実現により、石英の火加工部分を内製化し、**大手半導体製造装置メーカーの指定ベンダー**を目指す。



石英の特長と用途



石英の優れた特性から、光ファイバーや光学フィルター、実験用理化学機器、光学レンズ、半導体製造装置など、あらゆる分野で使用されております。



研磨



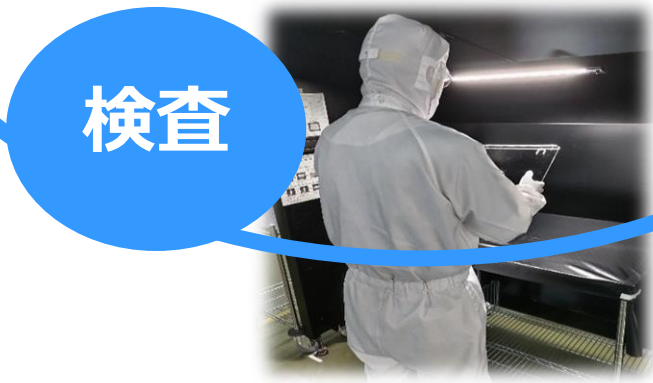
研削

溶接

サンド
ブラスト



洗浄

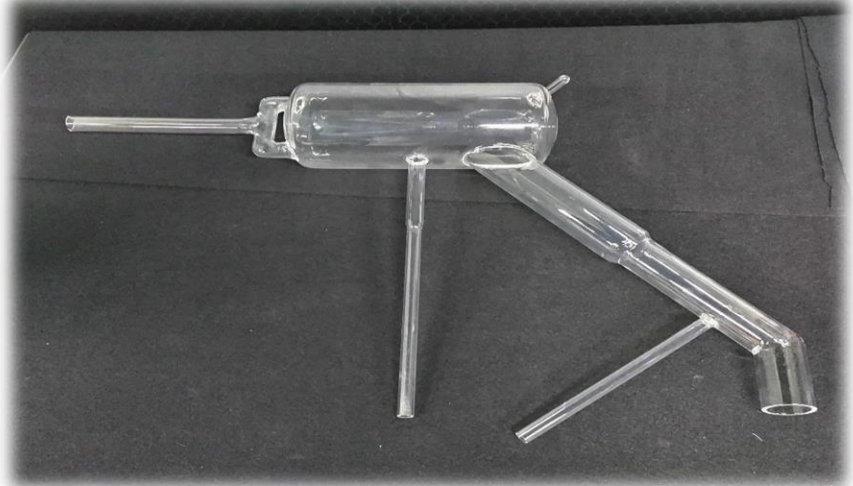
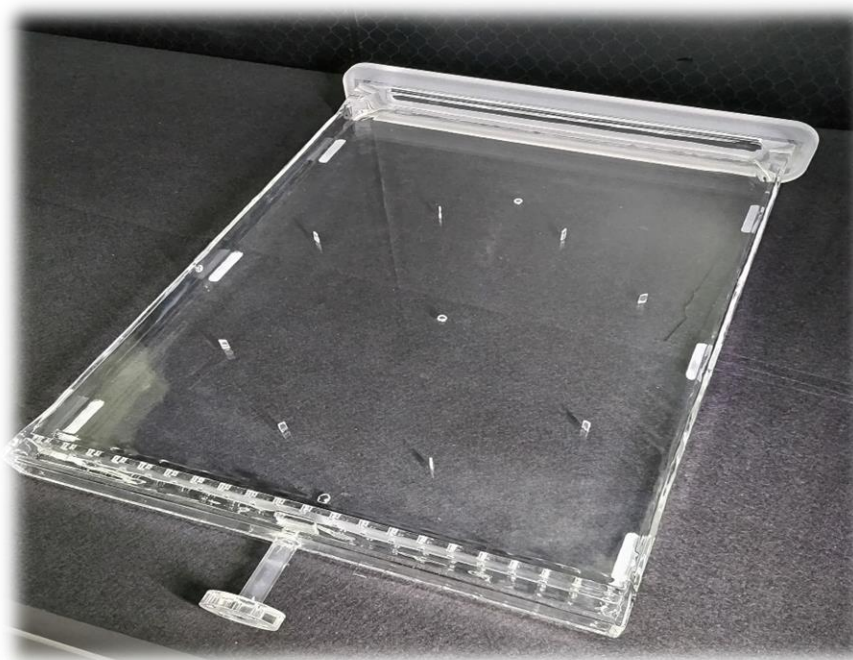


検査



測定





研削・研磨・サンドブラスト

設備名称	台数	仕様（ワークサイズなど）
マシニングセンター	3	ストローク：700mm(X)×400mm(Y)×400mm(Z) 主軸最高回転速度：12,000min-1
立型ロータリー研削盤	1	ワーク最大径：Φ700mm ワーク最大厚み：370mmt
汎用旋盤	3	ワーク最大径：Φ400mm
片面研磨機 TypeⅥ	10	～550mm×670mm
片面研磨機 TypeⅦ	27	～730mm×920mm
片面4軸研磨機	2	～Φ450mm
両面研磨機 16B（ラップ）	1	～Φ300mm
両面研磨機 16B（ポリッシュ）	1	～Φ300mm
両面研磨機 22B（ラップ）	1	～Φ450mm
サンドブラスター	1	～800mm×1,000mm×1,000mm



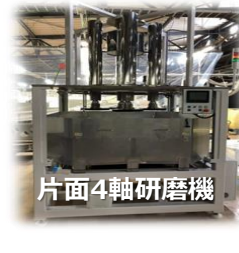
マシニングセンター



立型ロータリー
研削盤



汎用旋盤



片面4軸研磨機



両面研磨機16B
（ポリッシュ）



溶接・組立て

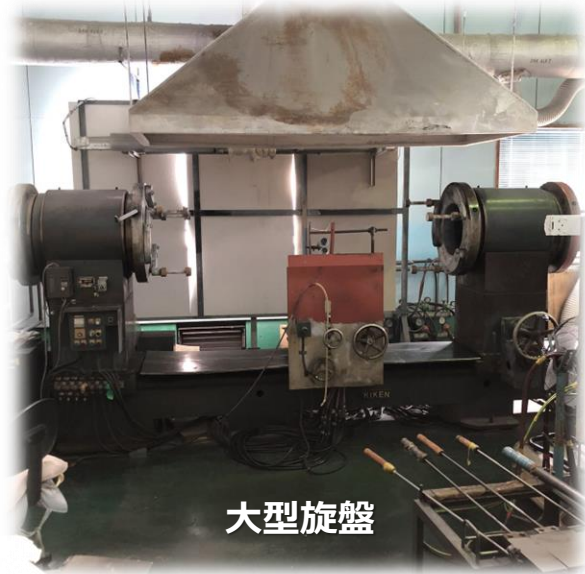
設備名称	台数	仕様（ワークサイズなど）
石英バーナー	10	各種口径
大型旋盤	1	ワークサイズ：～Φ350mm×2,500mm 金属バーナー：Φ40mm×8台
中型旋盤	1	ワークサイズ：～Φ200mm×1,500mm 金属バーナー：Φ40×2本、25×2本
電気炉	3	ワークサイズ：～600mm×600mm×2,000mm



石英バーナー



中型旋盤



大型旋盤



洗浄・測定・検査

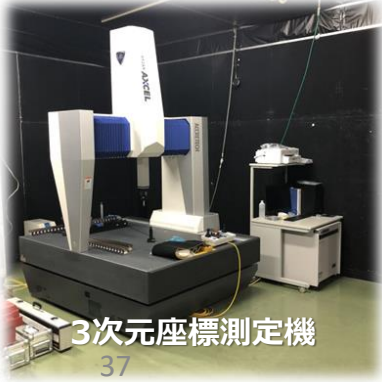
設備名称	台数	仕様（ワークサイズなど）
HF洗浄槽	1	洗浄槽内寸：500mm(D)×1600mm(W)×550mm(H)
超音波洗浄機	1	ワーク最大径：Φ400mm 第1層：超純水/超音波 第2層：超純水/超音波 第3層：熱風ブロー
3次元座標測定機	1	測定範囲：850mm(X)×1000mm(Y)×600MM(Z)
表面粗さ測定機	1	Z方向測定範囲：-210～+160μm X方向駆動範囲：～16mm
クリーンルーム検査室	1	クリーンルーム：クラス10,000 検査ブース：クラス1,000



HF洗浄槽



超音波洗浄機



3次元座標測定機



表面粗さ測定機



クリーンルーム検査室

半導体加工事業 SiC加工

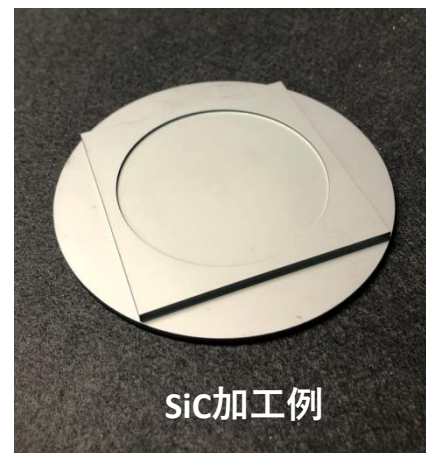


株式会社倉元製作所
KURAMOTO



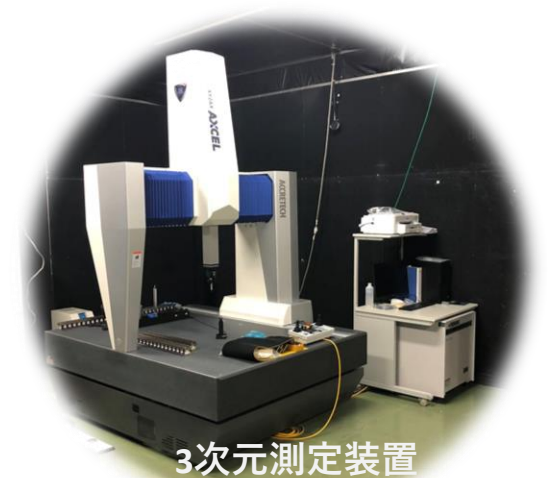
半導体製造装置用パーツ

- ・シャワープレート、リング類
- ・Si、SiC、石英など





No	内容および仕様等詳細(例)
1	超音波加工機(VTC-40B)
2	内外径加工機(VTC-40B)／2・3号機
3	SICワーク 内・外径加工機／補機
4	SICワーク超音波穴明け機／補機
5	ワーク修正装置
6	超精密立型ロータリー研削盤SGR-700R／SIC材対応仕様
7	SIC仕様4軸片面ポリッシュ盤製作／(改良型)
8	SICワーク 超音波洗浄装置
9	株東京精密 XYZAX AXCEL 9/10/6 PH C6-D PH10T/TP200を含む一式



基盤事業

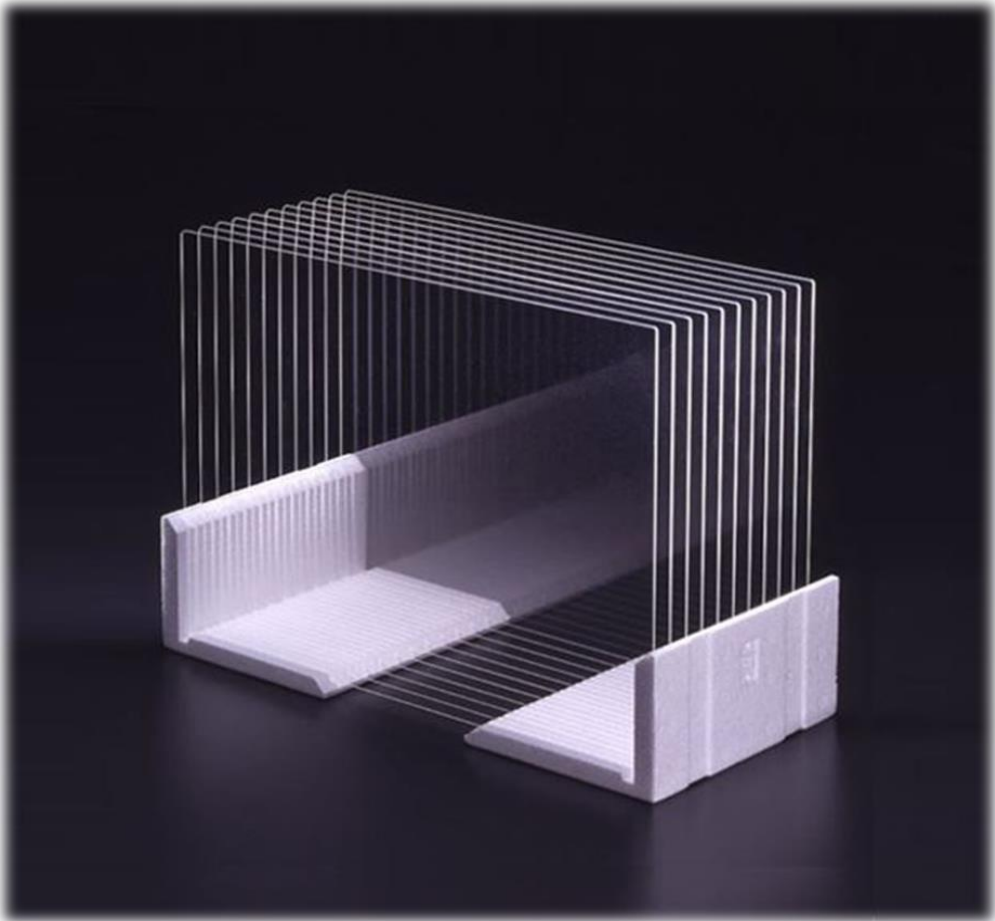


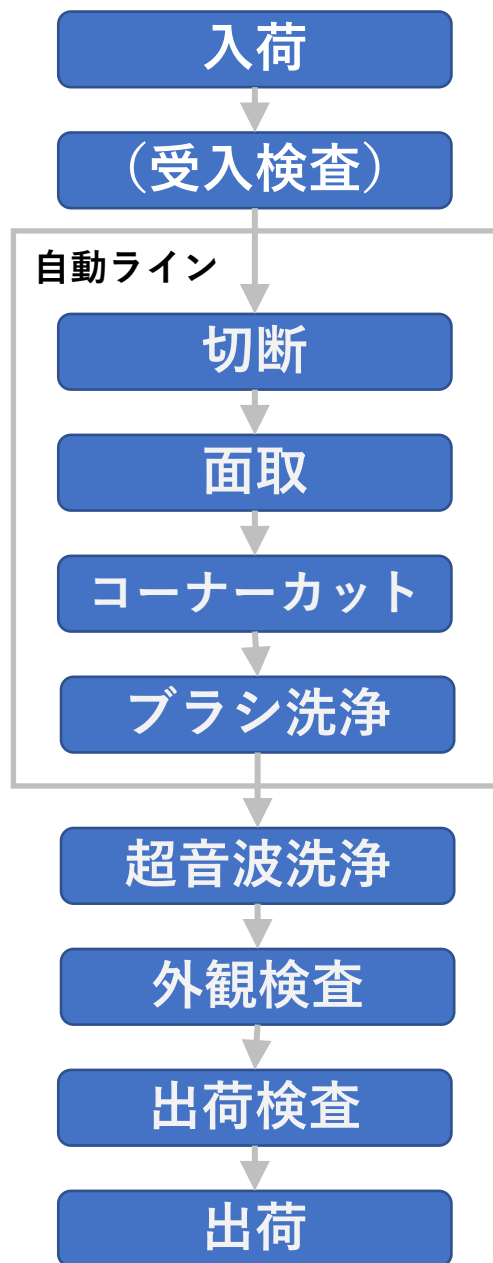
株式会社倉元製作所
KURAMOTO



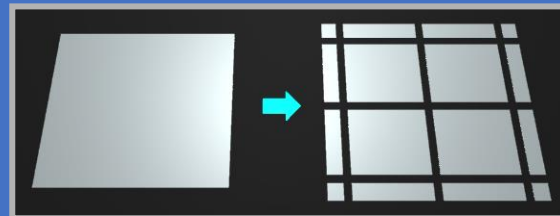
KURAMOTOは、ガラス基板等の切断・面取り加工から表面研磨加工まで、多様な超精密表面加工を量産できる国内唯一のメーカーです。

切断		研磨	
対応サイズ			
最大1100mm×1300mm			
生産能力			
月産300K枚以上		月産150K枚以上	
超精密加工技術			
寸法公差±0.05mm 鏡面加工		平面度≤1μm 表面粗さ≤1nm	
基材			
ガラス各種、TFT基板、CF基板、 液晶パネル、薄膜付基板、など		ガラス各種、液晶パネル、Siウエハ、 サファイア、薄膜付基板、など	





ガラス基板を高い精度で切断します



<切断・面取ライン>

- ・ワークサイズ : 300×400mm～1100×1300mm
- ・ライン数 : 3ライン以上



<14層式超音波洗浄機>

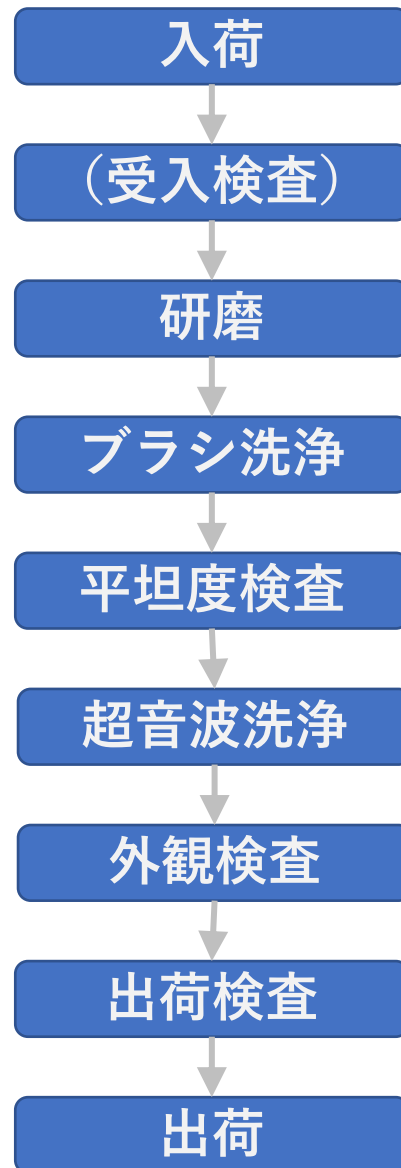
- ・ワークサイズ : ～1100×1300mm
- ・ライン数 : 3ライン

倉元製作所 5216

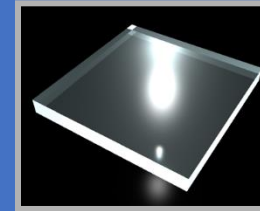
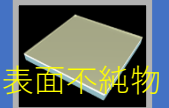
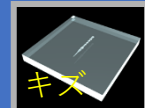
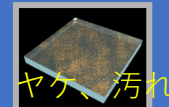
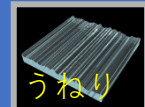


<外観検査>

- ・クリーンルーム面積 : 1,000m²
- ・クリーンルーム : クラス10,000
- ・クリーンベンチ : クラス100



目的に応じた最適な表面状態に仕上がります



<研磨機>

- ・ワークサイズ : ~1100×1300mm
- ・研磨機台数 : 40台以上



<14層式超音波洗浄機>

- ・ワークサイズ : ~1100×1300mm
- ・ライン数 : 2ライン

倉元製作所 5216

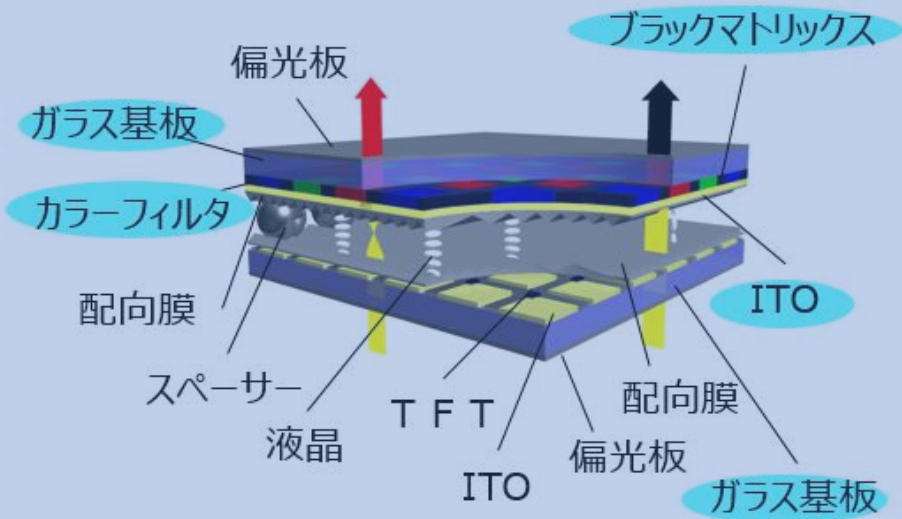


<外観検査>

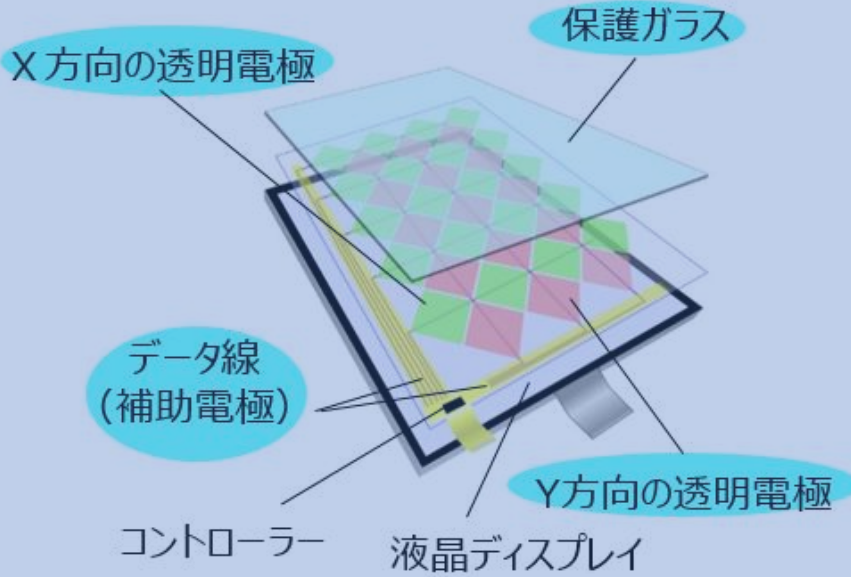
- ・クリーンルーム面積 : 1,000m²
- ・クリーンルーム : クラス10,000
- ・クリーンベンチ : クラス100



<液晶ディスプレイ>



<静電容量式タッチパネル>



CREATING THE FUTURE

ビジネスを
通じて

半歩先行く技術と商品力で未来を創る

ビジョン
目指すところ

世界の最先端技術を取り入れ
日本のモノづくりの原点に回帰し、ヒト・モノ・カネの
良い循環を生み出し、未来に向けて進化する

組織の理念は

全社員が
情熱を持って

全社一丸となれる組
織の仕組を持つ

モノづくりの
プロ集団